

プラットフォーム の名称	コホート・生体試料支援プラットフォーム
研究期間	令和4年度～令和9年度
研究支援代表者	醍醐 弥太郎 (東京大学・医科学研究所・特任教授)
研究支援代表者 からの報告	<p><u>1. プラットフォームの目的及び意義</u></p> <p>コホート・生体試料支援プラットフォーム（以下、CoBiA）は、近年急速に必要性が高まっているが、個々の研究者では入手が困難なヒト試料の提供と最先端の解析技術を全国の研究者の連携によって支援し、各研究の質の向上と応用の拡大に資することを活動の目的としている。具体的には、4つの支援活動が生命科学系の科研費受給者に対し、1) 日本人健常者集団 13.7万人のコホートデータと DNA 等の生体試料の提供と研究支援、2)品質管理情報を伴う、死後脳・脊髄・末梢神経・筋リソースの提供、3) 16.8万件の手術摘出がん組織等の生体試料、付随情報の提供と、最先端のオミックス等の生体試料解析技術支援、並びに4) 遺伝統計学をはじめとするヒトバイオメディカルデータの解析技術支援とセミナーによる教育支援を実施するとともに、健常人コホート、脳バンク、組織バンクの維持発展と支援人材ネットワークを構築している。支援を通じて、ヒト生体試料、情報を用いた解析が可能となることにより、科学研究費を受給した個別研究の深化と共に、ゲノム疫学、高次神経科学、オミックス疾患科学等、領域横断的な研究の発展や応用への展開が図られると期待される。CoBiA では、上記の支援機能の円滑な運営を可能とするため、各研究支援機関の連絡、調整を緊密に行い、支援の利用促進に向けた広報活動、若手研究者育成、異分野連携ネットワーク構築を目指した企画等も行っている。</p>
	<p><u>2. 研究支援活動の進展状況及び成果の概要</u></p> <p>CoBiA では令和4年度の第2期事業開始以来、生命科学研究に関する科研費研究課題に対して、2,829件の支援を実施し、その成果として Nature、Cell などのトップジャーナルを含む 318報の論文発表に貢献することができた（令和6年8月現在）。また、「若手支援研究成果発表会」および「遺伝統計学セミナー」、「リアルワールドデータ研究のための統計学セミナー」等を実施することで研究者の育成を図るとともに、領域横断的な支援者・被支援者の研究者ネットワークの構築に貢献している。並行して「がんの疫学」や「遺伝と病気」などをテーマとした市民公開講座を開催し、研究者のみならず一般市民に対しても CoBiA の支援事業を知ってもらう機会を提供している。広報活動としては、ホームページの他、支援説明会、学会展示会、ランチョンセミナー、さらには SNS、新聞・科学雑誌広告等、様々な媒体を通して本事業の周知に努め、新規支援利用者の拡大を図っている。また外国人研究者の支援活用に繋げるため、令和6年度は CoBiA ホームページ英語版をリニューアルし、利便性を高めた。さらに、成果論文解説文の掲載、支援を利用した研究者への取材、プレスリリースの SNS 投稿など、研究成果の発信にも力を入れている。こうした取り組みにより、被支援者に対するアンケート（令和6年8月現在）で 89.2%の被支援者が支援の有効性を前向きに評価する結果を得ている。</p>

科学研究費補助金 審査部会における 所見	<u>A- (プラットフォーム (連携推進協議会) の目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、目的達成に向けて事業計画を一部改善の上、継続を認める)</u>
	<p>本プラットフォームは、「ワンストップ」による生体試料提供、先端オミックス解析支援、遺伝統計解析技術支援、ゲノムコホート、ブレインリソース及び生体試料による研究支援を主としており、我が国の生命科学研究への貢献は極めて大きい。特に、我が国に専門的な遺伝統計学者が少ないことから、本プラットフォームにおけるバイオメディカルデータ解析推進は重要な取組であり、拡充されることが望ましい。</p> <p>また、新規の支援利用者が拡大していることや、「コホート横断検索カタログ」に参画して約 93,000 件に及ぶデータ提供を行い、コホート・生体試料の収集・活用に関して、国内のネットワークに積極的に参画している点は評価できる。今後、他の大型コホートとの有機的な連携をさらに進めることで、海外の大型コホート研究にも匹敵する統合コホートの構築、研究の推進を期待する。</p>